

高齢者に使える漢方薬



カゼをひいた

お子さんのように麻黄湯(まおうとう)が使いません。麻黄剤を飲むと、大半の人が嘔気、食欲低下、動悸などを起こします。カゼをひいたら麻黄抜き漢方薬が安全です。例えば、桂枝湯(けいしとう)は少し汗ばんだ程度なら使えます。あとは、香蘇散(こうそさん)などが使いやすいです。60歳、70歳になっても胃腸が丈夫だという方で麻黄の入った漢方薬がへっちゃらの方がいます。麻黄附子細辛湯(まおうぶしさいしんとう)なら、鼻汁、咽頭痛、冷えも改善できる可能性があります。鼻がつまる、副鼻腔炎(ふくびくうえん=ちくのう)には、辛夷清肺湯(しんいせいはいとう)です。痰がノドにべばりついて、むせるような乾いた咳が出るときは麦門冬湯(ばくもんどうとう)、滋陰降下湯(じいんこうかとう)です。熱が下がって、カゼの峠を越えたのに咳だけがしつこく止まらないときは、竹茹温胆湯(ちくじょうたんとう)です。



夜間の頻尿、腰痛、下肢の冷え

年齢を重ねると夜間にトイレに行く機会が増えます。腰から下が冷えて、足腰も弱ってきます。腰や下肢が痛くなります。こういう症状には八味地黄丸(はちみじおうがん)、牛車腎気丸(ごしゃじんきがん)を用います。プシ末、コウジン末を併用して作用をパワーアップさせることも可能です。



元気が出ない

もともと元気がない方、やせていて食べても体重が増えない人がいます。こういう方には黄耆建中湯(おうぎけんちゅうとう)です。もともと元気だった人が、加齢、カゼ、ストレスなどに伴い、元気がなくなったという場合は、補中益気湯(ほちゅうえきとう)です。抗がん剤を使用中、入院で加療中の方は十全大補湯(じゅうぜんたいほとう)、横隔膜から上の病気(肺がんなど)で元気がない人は人参養榮湯(にんじんようえいとう)です。これらの漢方薬は『長期戦用』の漢方薬です。3ヶ月、6ヶ月と長期に飲むことによって効能を感じることができます。



皮膚の乾燥、かゆみ

当帰飲子(とうきいんし)は、皮膚が乾燥して分泌物が少ない場合に用います。皮膚に潤いを出すために、六味丸(ろくみがん)+滋陰降火湯(じいんこうかとう)という手があります。咳に使われることが多い麦門冬湯(ばくもんどうとう)も皮膚の乾燥に使うことがあります。



外傷に伴う痛み

治打撲一方(じだぼくいっぽう)+桂枝茯苓丸(けいしふくりょうがん) 足関節の捻挫、大腿部などの打撲、上肢の痛みなどにも使えます。



抑うつ状態

最近相談の多い症状です。心療内科、精神科を優先する場合もあります。帰脾湯(きひとう)、加味帰脾湯(かみきひとう)、抑肝散加陳皮半夏(よくかんさんかちんひはんげ)などを試します。



最近の外來状況

カゼも流行せず、冷えて鼻カゼのお子さんが多いでしょうか。高熱が出る人はほとんどいません。コロナのおかげで、皆さん元気です。高齢の方も体調に気を付けているため、骨折、転倒も少なく、心筋梗塞で入院する人も減っているようです。暖冬傾向も相まってインフルエンザもそれほど流行するとは思えません。

お知らせ

岐阜市の漢方外来日

11月7日(土)、21日(土)

時間：14:00-17:30 場所：中島小児科(岐阜市健甕町2-1) ※すべて「院外処方」です。

小児夜間急病センター当番日

10月13日(金)

19:30-22:30(受付) 場所：岐阜市民病院にて

休診のお知らせ

11月12日(木)AM、25日(水)

都合により休診します。御迷惑をおかけしますが、よろしくお願いします。